



◇特集 京都市中央図書館に
利用者の声を届けて10年
◇Report 左京図書館図書館
移転開館10周年記念行事/
読み聞かせ交流会

■特集■ 京都市中央図書館に利用者の声を届けて10年

京都市図書館全体に関わる課題について 現状を聞いてきました

けやきでは1999年の発足以来、左京図書館に利用者の声を届けるだけでなく、京都市図書館全体に関わる課題については、中央図書館に直接利用者の声を届け、現状を尋ねる機会をもってきました。そのやりとりを「けやき」誌面を通して利用者や読者の皆さんにお伝えし、どうしたら誰もが使いやすい図書館になるのか図書館も利用者も共に考え行動する手がかりを提供してきました。

今回、京都市図書館全体についてけやきに届いている声を携えて現状を伺ってきました。かつて提案した事が実現したり、新たな取り組みも始まっています。

中央図書館：内藤幹夫事務局長、河口高志図書課長、氷見博図書課課長補佐・図書係長、
佐々木善弘図書課業務係長、田畑倫子図書係司書

けやき：永井、北園、島崎

2009年10月16日 京都アスニー会議室にて

中央図書館にインタビュー

移動図書館

永井：まず、以前と比べて変わった、ということがあれば教えて下さい。移動図書館についてはどうでしょう。

図書館：花背では花背小中学校が移転されたので、移動図書館の基地の再編を地域の方と話し合いました。移動図書館車こじか号が行っていなかった広河原にも行くことになりました。周辺地域の中で就学前の子どもが一番多く、強い要望があり、待っておられるのなら本を運ぼうということで。

この再編に伴って、京都市全体で従来より2カ所増えて40カ所に行っています。

永井：花背峠以北、越畑地域など積雪のある所では冬期、こじか号の巡回がありませんが。

図書館：道路凍結もあるので、巡回は難しいです。

永井：越畑の方から外に出かけにくい冬期こそ、こじか号に来てほしいと要望があります。

図書館：利用される方々に、こじか号がいかに大事に思っているか、今回の花背の基地再編の際にも

よくわかりました。移動図書館冥利に尽きると思っているのですが…

永井：暖冬で雪がない年もあり、そういう時は来てほしいという声も聞いています。

図書館：花背山の家から、周辺でのスリップ事故もよくあると聞いており、やはり難しいですね。

永井：行くことを前提に、雪なら休む、という考え方はできませんか？

図書館：山道など危険な箇所もあり、積雪や凍結の有無・箇所を事前に把握するのは困難です。こじか号の安全運行の確保は移動図書館運営の大前提です。

永井：小学校が基地になっている所は、地域の一般利用者が使えるということがまだ余り知られていないことがあるのでは。また小学校の門が閉じていてインターホンを押して入らなければならない、利用しにくいという声があります。

図書館：前回のけやきの提案を受けて、旗を立てて、こじか号が来ていることをアピールしています。

永井：その時、門は開いていますか？

図書館：こじか号が来ている時間は門を開けています。

永井：「今から移動図書館を始めます」と周辺で車から呼びかけてから始めてはどうでしょう？

図書館：周辺に放送して回るのは難しいですね。一般の方で、すでに待っておられる方もおられますよ。

永井：小学校は安全管理の問題があるので、もっと地域の施設やお店などを基地にできないのでしょうか。

図書館：以前基地として利用させてもらっていたスーパーがなくなって、その地域の小学校に基地を移転した例もあります。移動図書館開設には電源と屋根があるので、学校が使いやすいのです。

北園：左京区の第四錦林学区は近くに府立図書館があるということで、移動図書館は来ていません。でも府立図書館の児童室がなくなってしまったので、子どもたちのためにこじか号に来てほしいという声があるのですが。

図書館：台数や巡回基地を増やすのは中々難しいです。現在の一台のこじか号でどう回るか、ということで。かつては40日に一度だったのが、図書館が増えて、基地が減って、1ヶ月に一度回れるようになったのです。

永井：現在の基地の中でも地域に図書館ができてそのまま行っているところがありますね。

図書館：その地域で長年利用されて、日常生活の一部になっているところは中々やめられないのです。

学校と図書館の連携

北園：町中でも子どもの足では地域の図書館が遠く、利用しにくい地域がありますね。

図書館：学校を通して子どもたちに京都市図書館に触れてもらえればと思っています。学校と地域の図書館との連携でカバーするようにしようと、去年の4月から学校向きの団体貸出を充実させる制度を始めました。この制度の周知に図書館職員が学校を回っています。各学校に拠点の地域図書館を決めてもらい、図書館からの先生方への働きかけをします。学年や委員会、課題用といった貸出カードを発行しているので、先生方は200冊まで借りることが出来るようになりました。

永井：就学児はそれでカバーできるかもしれません

が、乳幼児の親で地域図書館が利用しづらい人が多いのです。

図書館：日本図書館協会では、図書館は中学校区に一つ、と言われていますが、現実にはそうはいかず、学校や子ども文庫等本のあるところを結ぶようなことができると思うのですが。

京・ライブラリーネット

永井：2003年に完成した京・ライブラリーネットの現状や問題点を教えて下さい。

図書館：京・ライブラリーネットは5年に1回更新し、課題を克服しています。2007年10月に更新して、自動音声応答サービス、インターネットを通してパソコンや携帯電話からの予約申し込み・貸出延長等ができるようになりました。ホームページでは各館の様式の統一をして見やすくなったと思います。

永井：右京区の京北自治振興会図書室とコンピュータでつながることは？

図書館：インターネットを通して京都市図書館蔵書の検索はできますが、この図書室には京都市図書館の端末はありません。

永井：コミュニティプラザ深草図書館のような形にならないか、という声があります。

図書館：京都市図書館の端末は端末内の個人情報管理の観点からも京都市図書館職員が管理しなければならず、断念しました。

永井：職員を派遣できないのですか？

図書館：端末の管理のみに派遣するのは無理です。この図書室は京北自治振興会の図書室なので、京都市図書館の権限が及ばない所には端末は置けないということがネックになっています。

予約がしやすくなって

永井：これまで20館全館を一つの図書館とみなすという理念でネットワーク化を進めて来られましたが、現在の実情を教えてください。各館の相互貸借の受け取り、送り出しに追われて職員さんの休日出勤やサービス残業も見聞きます。

図書館：インターネット予約をたくさんして頂いてありがたく思っています。

予約件数は前年比で34.2%増。ブックメールでの物流が増えています。予約をしておきながら、本を受け取

りに来ない人も多いです。とりあえず予約をしておこう、という利用者が多くなってきています。そのまま取りに来られず、流れてしまう予約図書も多いようです。

収書方針

永井：左京図書館は5万冊の蔵書しか可能でなく、現物が充分揃っていないので、他館の本を予約することになるのだが、中身がよくわからないままの予約となる場合もある。本が到着して手に取って見たら、当て外れ、ということもあります。地域図書館が主題を分担して蔵書構成するということがかつては言われていたが、基本の図書は全館に要るのでは。

図書館：基本資料を分担しようとは思っていません。各館で持つべきだと思います。900番台（文学）は各館それぞれでよいが、中央館を中心に他の分野で分担ができればよいと思います。2008年2月に制定された「京都市図書館資料収集方針」をホームページに掲載しています。

図書館：他の都市では一つの中央館の蔵書が180万冊というところもあるが、京都市は20館全部で180万冊というのが現状です。下京図書館では「祭り」東山図書館は「陶器」といった特色は出しているが、地域館で専門性を強く出すのは無理だと思っています。右京中央図書館は「京都」というテーマを掲げて、中央図書館蔵書だった3万冊を移転したが、中央図書館に京都関係の本が何もない、というわけにもいきません。昨年やっと総論に当たる「京都市図書館資料収集方針」ができたところで、各論はどうするか、という段階です。ある地域館では収集方針を作ろうという動きもあり、貸出が増えて館長がやる気を出しています。一方、インターネットで便利になった分、貸出の物流は増えましたが、借りて行くだけで、本棚の前後左右を見て歩く人が少なくなったように思います。

図書館：カウンターに居て感じるのは、カウンターの回りだけに利用者が多いということです。

永井：予約した本を取り来る、あるいは返しにくるだけ、という人が多いのですか？

図書館：はい、それでは、図書館の役割としてはどうなのかな、書架を散策して頂くのが図書館と思うのですが、私たちも利用者を書架へ誘えるように、展示も

展開しています。世の中にキーワードが流れたら、その本に出会えるような図書館をめざしたいのです。

左京にも中央図書館を

永井：左京区は図書館利用のニーズが高いにもかかわらず中央規模の図書館がありません。左京図書館で予約数が多いのも需要と図書館規模が合っていないことの現れだと思います。北東部に中央図書館がほしいという声はずっとあるのですが。

図書館：図書館整備の中長期計画は一段落。左京中央図書館という話はありません。かつて計画された新中央図書館の理念は残っていますが。

永井：左京図書館に本がないから他館の本を予約せざるを得ないのです。新中央図書館も必要ですし、北東地域にも中央図書館が必要です。

図書館外での返却ポストの新設

島崎：9月10日に地下鉄市役所前駅と京北自治振興会図書室に返却ポストが新設されたそうですね。利用状況は？

図書館：9月10日～30日で市役所前が570冊、次の15日間で783冊が返却されました。京北では順に16冊、37冊です。

島崎：何か困ったことは？

図書館：CDなど視聴覚資料は返却ポストへの投入は断っているのですが、いくらか入れてしまう人がいます。

島崎：府立図書館など他の図書館の本が入っているということは？

図書館：それは館外、館内のどの返却ポストにもあることですが、当方から該当する図書館に連絡し、その図書館が借り出した人に連絡し、取りに来てもらうよ



地下鉄市役所前駅に設置された返却ポスト。改札口のすぐそばにある。

う、伝えてもらいます。

島崎：間違っって本を返却ポストに入れると、職員さんたちの手間も随分かかるのですね。初めて館外にできた返却ポストなので、利用者もきまりを守って上手に利用したいですね。

廃棄本

永井：廃棄本の有効活用は考えておられますか？

図書館：児童書は小中学校に配分できないか、制度を今年度いっぱいを目処に作っているところです。

図書館：京北自治振興会図書室には約500冊を寄贈しました。図書館の本は市民の財産ですから、廃棄本といえどもその配布は難しい。読んでほしい本を有効に配布できるようなシステムができるとよいと思っています。

利用促進

図書館：現在、利用者登録は市民の4人に1人。もっと使ってもらえるようにしないといけないと思っています。

永井：午後5時以降は子どもだけの利用はできないことになっていますが、この頃は低学年でも5、6時間目があり5時までに図書館に行くのは難しいです。

図書館：図書館に来るのが難しければ、学校の廊下でもいいから本を置いてもらって、本に触れる機会を増やせたらと思っています。

永井：司書さんが小学校や中学校に出向いて利用促進をはかる機会はあるか？

図書館：中学生の利用が少ないので、夏休みに学校司書教諭の研修に出向いて宣伝をしてきました。学校から要望があれば出向くように努めています。醍醐中央図書館ではヤングアダルトの展示をして学校にアンケートをとって、という新たな取り組みをしています。中学の図書委員と話し合いをする場を持つ、行事をしてもらう、などどんな形で学校と協力できるか相談しているところです。小学校へは中央図書館が読み聞かせやブックトークで月一回出向いています。今年5月、ある学校の6年生の修学旅行事前学習で阪神淡路大震災のブックトークを依頼され、勉強になったと感謝されました。

永井：そのような取り組みに対応する職員の体制は大丈夫ですか。また中央、右京、醍醐、伏見、と中央図

書館がある行政区の人はその恩恵に浴することができますが、中央館がない行政区では、どうなのでしょう。

図書館：中央館は人員の融通がきくが、地域館は厳しい状態です。ただ、地域の要望を受けて、向島図書館のように、開館前に学校に職員が出向いていて活動している地域館もあります。職員も外に出向くことで鍛えられます。

障害者向けサービス

永井：障害のある方への対応で変わった点は？

図書館：視覚障害者向けの「音の文庫」（京都市図書館のCD・カセットテープを京都ライトハウスを通して利用）は、これまで醍醐中央図書館の資料のみが対象でしたが、右京中央図書館やこどもみらい館の資料も利用できるよう、取り組み中です。

永井：聴覚障害の方が図書館に問合せをするには、ファックスが必要です。現在利用案内には各館ともファックス番号が掲載されていません。ぜひ掲載してください。

図書館：検討します。

永井：京都市図書館所蔵の点字図書の検索が容易にできるようにならないでしょうか。リストも欲しいです。

図書館：児童書に関してはリストがあるのでそれを活用できないか検討中です。

永井：視覚障害者向けに京都市図書館のホームページの図書検索システムの利用方法の講習会を実施してほしいとの声があります。

図書館：視力の低い方や目の疲れやすい方でもホームページ「京都市情報館」を快適にご覧いただけるホームページ支援サービスを行っています。音声読み上げ、文字拡大、配色変更サービス等です。

永井：一般に音声読み上げサービスには採用しているシステムによって違いがあるそうです。「京都市情報館」がどの方法を採用しているのか知って慣れるために、一度講習を受ければその後スムーズな利用ができるのです。

図書館：ライトハウスとの連携を検討します。



絵本ふれあい事業

永井：私は保健所での絵本ふれあい事業（8ヶ月検診に訪れた親子に絵本にふれあう機会や情報を提供）にボランティアとして携わっていますが、もっと図書館と保健所が強くリンクし図書館がこの事業に積極的に関わってほしいと願っています。たとえば左京保健所の絵本ふれあい事業では訪れた親子それぞれの最寄りの図書館（左京、岩倉、こどもみらい館、移動図書館）の案内チラシを配っています。こういうことを全市的にやってほしいのです。

図書館：保健所によって扱いが違うのが実情です。保健所との懇談会で個別に要請したいと思います。

永井：8ヶ月検診での図書館案内の配布は利用促進に効果があるので、よろしくをお願いします。

図書館運営

永井：指定管理者制度に移行する図書館が出てきました。

図書館：京都市では昭和56年（1981）から財団委託で運営してきました。市民が公に図書館運営を任せられないという評価をすれば京都市でも指定管理者制度を導入することがあるかもしれませんが、図書館としては現在の運営方法がいいと思っています。図書館の自

由宣言に則って、民主主義の砦である図書館を公である我々が管理運営して行きたいと思っています。

永井：市場原理は公共図書館にはなじまない、とけやきは思っています。指定管理者制度を導入してうまくいっている所はないと感じています。財政削減の矛先が、図書館や文化行政に向けられることが多い昨今、図書館の方々には自分たちがやるのがよいのだ、ということを手を主張してほしいです。

図書館：年間の貸出が700万冊。1冊2000円として700万冊で140億円を京都市民に還元できている計算です。図書館は継続性が重要、また地域に根ざした図書館を目指しているのです。効率性のみの指定管理者より、もっとよいと言われる評価をもらえる図書館となるよう頑張りたいですね。

なお、当日時間切れで尋ねられなかった中央図書館児童室の開館時間について、下記の質問を後日中央図書館へ届けました。

質問：中央図書館1階にある児童室は、午後5時で閉室になります。中央図書館に夕方仕事帰りに訪れても児童室を利用できないので不便という声をよく聞きます。他の中央図書館並みに、夜間も児童書の閲覧や貸出し返却が出来るようにならないのでしょうか。

インタビューを終えて

確かに10年前と比べると、京都市の図書館はとても利用しやすくなった。活動を始めた当初からけやきが利用者の視点で提案してきた種々の課題は、一定解決の方向にある。この10年のあいだに、遅れていたコンピューターネットワークの整備も進み、中央館・地域館も増え、取書方針も昨年作成公開された。廃棄本の活用もまず児童書から学校など公的施設への寄贈という形で実施されるようになった。障害を持つ人へのサービスも改善が模索されている。今後も市民利用者の声を反映した図書館運営をぜひ続けていただきたい。さらに、図書館側から市民に「京都市図書館がめざす図書館像」がより具体的に示されれば、市民の図書館への関心も高まり、市民との協働もより実りあるものになるだろう。

ところで、けやきの活動を始めて間もない頃のファイルを繰っていたら、ちょうど10年前1999年12月発行の京都市図書館ニュースレターが出てきた。見出しは「京都

市新中央図書館（仮称）基本構想が答申される」。その後の経済状況の悪化と京都市の財政難から、この構想は一部が右京中央図書館開館などで実現した他は現在凍結中である。10年を経て新館の建設はさらに難しくなっているようだが、必要なものは必要だ。居心地のいい右京中央図書館は多くの利用者で賑わう一方、図書館が遠い地域の子どもはなかなか利用できない。移動図書館車も現状の一台ではステーションは増やせないと聞く。

昨今、行政の予算削減の矛先は、見事にすぐには成果が（悪影響も）見えない学術文化分野に向ってる。が、京都市では、将来を見据えて図書館をはじめ文化行政にぜひこれからも力を入れて欲しい。既存の施設・資料の活用など、お金が足りなくても出来る工夫もある。図書館員の腕の見せ所である。しかしこれとても、目先の経費削減のために指定管理者制度を導入し図書館が民営化されてしまえば、経験豊富な司書はおらず、継続性は保たれず、無理な話となるのだが。（永井）

左京図書館移転開館10周年を祝って

左京図書館移転開館10周年記念事業

2009年10月15日～11月30日

この10～11月、左京図書館移転開館10周年を祝う記念事業が多彩に催されました。図書館が企画した左京区の鉄道展、鉄道模型公開運転会、読書スタンプラリー。けやきが企画し図書館と共催した諸岡弘さんのおはなし会「親子で楽しむ絵本の世界」。どの催しも来館者や参加者に大好評の力の入った企画で、子ども向けのお楽しみ会以外ほとんど行事がなかった10年前までの左京図書館を思うと感慨深く、とてもうれしく思いました。(永井)

JPIC読書アドバイザー

諸岡弘さんのおはなし会 「親子で楽しむ絵本の世界」

10月31日

けやき会員の諸岡弘さんは、大学図書館司書の傍らJPIC（出版文化振興財団）読書アドバイザーとして毎週のように書店や幼稚園などで絵本読みや紙芝居の活動を行ない、多くの子どもたちに絵本の楽しさを届けておられます。

その多忙な諸岡さんが「左京の子どもたちにも絵本を読みに行くよ」と言って下さり、今回のおはなし会は実現しました。図書館と共催し「左京図書館移転開館10周年・図書館友の会けやき活動10周年の記念の会」として図書館の他の記念事業とも日程を重ねる形で、10月31日の土曜日の午後に「おじさんに絵本をいっぱい読んでもらう集い」を企画しました。

当日は、久しぶりのいい天気で児童館の行事も重なり、思いの外子どもの参加が少なかったのが残念でしたが、ノリのいい諸岡さんの語り口にまず子どもたちが惹き込まれ、たちまち次々に読んで下さる紙芝居や絵本の虜になりました。そして、その子どもたちに引っ張られる様に、おとなも一緒になって、1歳の赤ちゃんでさえ全く退屈することなく、一時間余り絵本の世界を存分に楽しみました。

まず、小気味良い拍子木の音で紙芝居が始まり、諸岡さんの呼びかけで「おおきく おおきく おおきくなーれ」とみんなで唱えているうちに、会場の一体感は一気に高まっ



て行きました。絵本「だるまさんが」や「うしはどこでもモ〜」で盛り上がり、「うんちっち」では予想通り幼児たちが大喜び。絵本の言葉が歌になっている「もったいないばあさん」や「はらぺこあおむし」は、CDで歌を流し身体中でリズムをとって踊りながら読んで下さいました。幼児も赤ちゃんも、踊ること踊ること…。

すてきな絵本に出会えた幸せに満ちあふれた、おはなし会でした。

◆参加者のほとんどの方が感想を寄せて下さいました。その中の一部をご紹介します。

- ・子ども心にかえってすごく楽しい時間を過ごさせていただきました。どの本もおもしろかったけど「ちびゴリラのちびちび」に特に感動しました。子どもたちの反応がとっても楽しくてかわいらしかったです。「しろくまちゃんのほっとけーき」（てんじつき さわるえほん）は、目の不自由な子どもたちにどんな反応をするのか興味を覚えました。
- ・初めべったりとくっ付いていた我が子が最後は踊り出しました。とにかく楽しいおはなし会。知らなかった本、定番の本の新しい発見、あっという間の一時間でした。またこのような機会を設けて下さい。

- ・年長の男の子（5才）の読み聞かせをする折り、ついつい早く寝たいのと本をゆっくり味わって楽しみたいという二つの気持ちの中で揺れながら、結局毎晩本を慌ただしく読んで自分を反省しています。やっぱり余裕を持ちゆったり笑顔で本と一緒に楽しまなあかなーと、諸岡さんの笑顔を拝見して思った次第です。

- ・諸岡さんが楽しみながら絵本紹介をされていたのが心に残りました。絵本の素晴らしさを再確認したひとときでした。学校現場にも大いに利用して行きたいと思います。活用したい本がいっぱい見つかりました。

- ・娘は絵本大好きですがマイペースで…。今日は最後まで聴き入っていたのに驚きました。男の人に読んでもらうのも、またいつもと違っていいのかも知れません。

・諸岡さんの個性的でインパクトがあり迫力のある話し方に感銘を受けました。横になるとすぐに寝てしまいますが、子どものために絵本を読んであげようと思いました。もちろん私の大好きな本を。
 ・子どもとコミュニケーションを取りながらの進行で、諸岡さんご自身がその絵本を愛して伝えたいと思われているのを感じました。家庭でお父さん・お母さんが子どもに絵本を読むことで共感し合うことの大切さが、もっと皆さんに伝わればいいなあと思いました。
 ・「子どもと一緒に楽しむ」ことをとても実感できる催しでした。子どもの反応、踊り出す子もいて、子ど

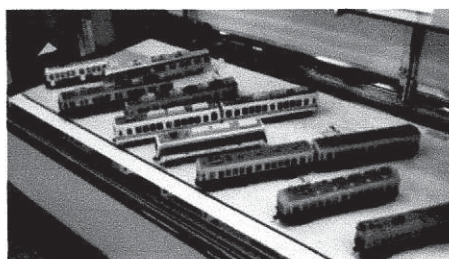
もたちも心から楽しんでいるのだなと思いました。
 ・今日は本をたくさん読んでくれてありがとうございました。本は大好きです。今私は三年生です。これからも本を読んで行きたいです。
 ・「絵本は親が気に入ったものを!!」という言葉に自信を持ってました。またお話しにきて下さい。
 ・今日のおはなし会、とても楽しかったです。子どもたちが本当に楽しんで参加してだんだんのってきたところで音楽が入ってますます最高潮でしたね。けやきの会の長い日常の活動の結実だと思つづく思いました。

左京区の鉄道展 10月17日～11月20日

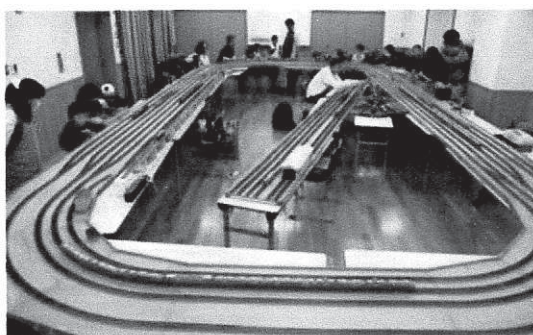
鉄道友の会京都支部の会員が提供して下さった電車の写真や車両模型などを、図書館内ベランダ側の壁面に展示。

なつかしい京都市電や叡山電車を中心に鞍馬のケーブルカー、動物園の遊戯列車、芦生演習林のトロッコまで、左京区内を走る電車を捉えた大型写真パネルが23点。写真パネルと路線図で見る市電や叡電・地下鉄の歴史の展示は、地元で育った人にはとても懐かしく、また他府県から移り住んだ者には非常に興味深いものでした(写真右上)。ガラスケースの中には、叡電900系「きらら」をはじめ左京区内を走る(走った)電車の1/80の模型。ポール電車時代の叡電八瀬比叡山口駅の模型もありました(写真右下)。

さらに、左京図書館子どもの本コーナーの鉄道が出てくる本を紹介するリストを作成し、そのリストとリストにある本が写真展のスペースに並べられました。けやき会員たちが毎週木曜日絵本コーナーで絵本を読んだり絵本探しのお手伝いをする活動をしています。乗りものが登場する絵本のリクエストが頻繁にあります。このリストはこれから大活躍するでしょう。



鉄道模型公開運転会 10月25日



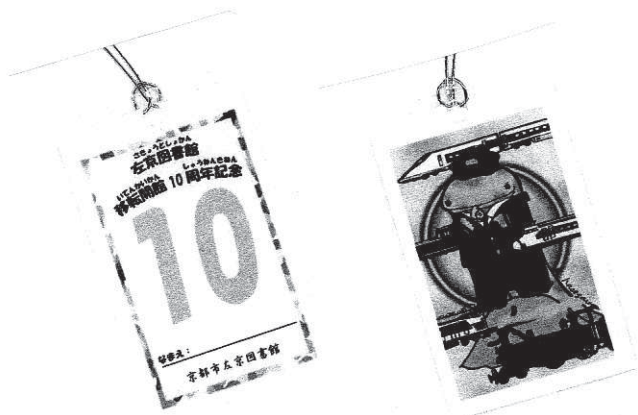
図書館の上階左京合同福祉センター3階の大会議室をのぞくと、部屋いっぱい楕円形に模型電車用のレールが敷かれていてびっくり(写真左)。その上を叡山電車や京阪電車、JRなどさまざまな模型車両が走っています。ゆっくり、或はスピードを上げて。駅舎や踏切、車庫もあり、列車が次々に走る姿をおとな子どもも目を輝かせ吸い込まれる様に見入っていました。会場は鉄道が大好きな人たちの熱気に満ちて、乗りものの好きの我が子との日々を懐かしく思い出しました。

読書スタンプラリー 10月15日～11月30日

08年1月に催されたポーランドの絵本展の際にも催されましたが、今回も期間中に本を10冊借りてスタンプが溜まると「オリジナルしおり」がいただける読書スタンプラリーが実施されました。

10周年記念の今回のしおりには左京図書館マスコットキャラクター「サンショウウオの大ちゃん」が駅員姿で登場です。

この頁の写真提供：けやき会員・鉄道友の会会員 神谷潔氏



「読み聞かせ」交流会を終えて

2009年9月7,18,23日

左京区南部小学校「読み聞かせ」ボランティアの研修と交流の集い

左京南部の小学校で活動する、読書ボランティアの方達の研修と交流の集い「読み聞かせ」交流会が、今年も左京図書館で9月7、18、23日の3回に渡って行われました。

この交流会は、学校での図書ボランティア活動が盛んになっていくなかで、けやきがボランティアへの支援の必要性を感じ、左京図書館の主催で、けやき会員も協力して、2005年に第1回が始まりました。そこで「どのように本を読み聞かせしたら良いのか、どんな本が良いのか教えてほしい」「どのように読み聞かせ活動しているのか、他校と情報交換をしたい、交流を持ちたい」といった声が出てきました。そこで翌2006年からは、研修・情報交換・実技交流を3回6時間のプログラムで行なうようになり、今年で5回目になります。

今回は、左京南部の七つの小学校に、上京区の小学校で活躍されている方、左京図書館絵本学習会のメンバーなどを加え、毎回30人弱、のべ80人の参加があり、活発な交流会が開かれました。

第1回目は、毎年好評の中川あゆみさんによる講義「えほんたいけん・えほんたんけん」。絵本の特性を具体的に講義していただき、松井直さんの「絵本は子どもに読ませる本ではなく、大人が子どもに読んでやる本である」という言葉を元に、「生きた言葉は命を持ったことばになる」と言葉の世界を届ける絵本の読み語りの意味を話して頂きました。民話絵本の選び方についてもお話頂きました。

第2回目前半は、左京図書館の高井司書さんの講義「絵本をよんでみる～子どもたちへの読み聞かせ」。読み聞かせに適した絵本の選び方を、沢山の本を例に取って説明して頂きました。そして実際に絵本を読むなどして、集団への読み聞かせのコツも教えて頂き、自分の読み方を見直す良いきっかけとなりました。後半は、各学校の活動を発表し質疑応答で情報交換しました。そのなかで、お話を聞かせるために小道具を使うという案に対し、道具に頼るのではなく、本来はまず本を読んであげることが大事なのではないかという疑問も出されました。

第3回目は、6、7人の小グループに分かれての読み聞かせの実践交流。全員がおはなし会で読みたい本を持ち寄ってみんなの前で読み聞かせをしたり、読んでもらったりしながら、感想や質問、アドバイスなどを出し合い、楽しい時間を過ごしました。その後、各グループで読んでもらった本や出た意見などを全体で発表し合いました。読み慣れた方も多くなり、技法も上達してきましたが、みんなで読み合うことで、改めて「読み聞かせをしてもらうことの楽しさ・大切さ」を実感しました。絵本の知識も増え、大いに盛り上がりました。

交流会の報告は、左京図書館から各学校のボランティアに届けられます。

この「読み聞かせ」交流会が、ボランティアの皆様さんの支援になり、こどもたちに本の楽しさを届け、未来を生きる力の助けになればと願います。
(伊藤)

けやきの活動 09年7月～09年11月

7/13	ニュースレターNo.31・総会報告 印刷発送	9月中旬～	けやき活動10周年記念行事 「諸岡弘さんのおはなし会」準備	・7/25.8/22.9/26.10/24.11/28 (第4土曜)	図書館おたのしみ会に協力
8/28	‘あかちゃんに絵本を’サポーター会議	9/30.10/5	「諸岡弘さんのおはなし会」 チラシ印刷、会員向け案内発送	・7/11.09/25.10/23.11/27 (原則第4金曜日)	絵本学習会
8/28.9/7.18	「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ	10/16.	ニュースレター32号特集のため 中央図書館を取材	・8/28.9/7.10/5.11/9 (第1月曜他)	事務局会議 図書館とのミーティング
9/7.18.23	「読み聞かせ」交流会	10/31	諸岡弘さんのおはなし会	・7/2.9.16.23.30.8/6.13.20.27.9/3.10.17.24. 10/1.8.15.22.29.11/5.12.19.26	(毎週木曜10:30-12:00)
9月上旬～	ニュースレターNo.32 取材・原稿作成・編集	11/5	京都市教育功労者表彰式典に 出席(奥坂、永井) (図書館主催行事には協力)		絵本コーナーで‘あかちゃんに 絵本を’サポーター活動

TOPICS

第9回 おとなのための語りを楽しむ会

11月14日

2001年5月、移転開館2周年の記念行事の一つとして、けやき会員と縁のある京都おはなしを語る会のメンバーを語り手に迎えて、第1回が開かれました。それまで図書館にはおとな向きの行事がほとんどなく、会の名称をただ「おはなし会」とすると子どもだけのものと思われ勝ちなので、あえて「おとなのための」を「語りを楽しむ会」の前につけ、この会は始まりました。やがて図書館の定例行事として毎年11月に開催されるようになり、今年で9回目となりました。今も「おとなのための語りを楽しむ会」という名称はそのままですが、もちろん子どもたちの参加も大歓迎です。

今年の会も、小学生から70代の方まで年齢も幅広く男性も交じった30名程のみなさんが、とても熱心におはなしに耳を傾けて下さいました。左京区でも新型インフルエンザが猛威を振るっており、残念ながら語り手のひとりが当日参加できませんでしたが、20分近い長いお話も一つならずあったのに子どもたちも気持ちを切らせることなく、心地よい緊張感に身を委ねておはなしの世界を堪能できた90分でした。(永井)

教育功労者表彰式典

11月5日 於京都アスニー

生涯学習振興功勞でけやきが京都市教育委員会より教育功勞団体として表彰されました。式典にはけやきを代表して永井、奥坂両氏が式典に出席。その時頂いた表彰額の文言を記載します。試行錯誤の10年でしたが、このような評価をいただき、今後の励みにしたいですね。(表彰については10頁左上もご覧下さい)

貴会は永年にわたり本市左京区図書館の会やき様
 移転開館時から同館の行事に協力する
 など利用者立場から図書館活動に
 積極的に参画し地域に根ざした図書館
 運営の推進に尽力するなど本市教育の
 充実に多大の貢献をされました
 よってここに教育委員会表彰規則により
 表彰します
 平成二十一年十一月五日
 京都市教育委員会

表彰状



この額は左京図書館カウンターそばに掛けて頂いています

けやきの
本棚 32

私の
おすすめの本

The Manzai 1・2

あさのあつこ作
ジャイブ(ビュアフル文庫)
05年

主人公の「歩」が「秋本」というクラスメートと漫才コンビを組む話です。繊細な歩に対して、秋本は図々しい性格だけど、歩のことを思いやってくれと

てもいい奴です。ぼくもこんないい友達ほしいです。そして、歩と秋本は漫才の時だけでなく、ふだんの会話もすごくおもしろいです。(松ヶ崎・中1・沢見竜)

きょうというひ

荒井良二作
BL出版 05年

「きえないように、きえないように」。女の子が、雪でろうそくの家を作っています。2歳の息

子にとつては、ろうそく||
 パースデーケーキ。この本の絵を見ても「フーする？」と言っていました。が、ルミナリエ会場のはずれにひっそりと置かれた震災の「希望の灯り」を見て、「きえないように？」と。冬の特別な一日にどうぞ。(北白川・会員・澤田)

おいしい

手づくり手帖

ていねいに暮らす

河合真理著
家の光協会 09年

元気がでない時、美味しそうな料理の写真を眺めていると、じんわりと滋養をもらう気がします。季節の手づくりは、身体と心を養う力を秘めています。12年8年も！熟成したフルーツやナッツを焼き込んだクリスマスのケーキ、根っこの天麩羅など、想像力を刺激するレシピが満載の1冊です。(左京図書館・T)

図書館友の会けやきが京都市教育委員会より2009年度の教育功労団体として表彰されました

私たち図書館友の会けやきは、この10年間、京都市の図書館が誰もが利用できる市民の図書館となることをめざし、市民利用者の立場で何が出来るかを模索し続けてきました。今回の表彰では、図書館行事に協力するだけでなく、図書館と利用者の橋渡し役として図書館に利用者の声を届ける活動を行なっていることも、評価していただきました。

平和で民主的な社会を築くためには、誰もが利用できる公共図書館はなくてはならないものです。これからも利用者の立場から図書館に協力したり、様々な声を届けたり、図書館の良き友として図書館を見守っていきたいと思っています。会員の皆さんは引き続き、また新たに仲間になって下さる方も、図書館を舞台に楽しく一緒に活動しましょう。

図書館友の会けやきの仲間になりませんか 知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、左京図書館を支え、育てていきたいのです。

こんな活動をしています 一緒にしましょう

子どもたちに絵本を読んだり、人形劇やおはなしも。
赤ちゃんの本選びのお手伝いや絵本についての相談も。
映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、
「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。
図書館の現状を調べたり、提案も。 ニュースレター「けやき」を発行。

ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方
TEL/FAK 075-721-2625
郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番
口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

のれなる天定活れ子体子ゆ読 一▽で近し景市毎れ 一▽
文てっ理下支用にとだどめ書事政すなくの電日た左左
化いて由り給さ携もけも基活業府ね図：街を乗写京京
事たしでのすれわとで文金動仕の。書。角通っ真区書
業分まこ巢るてる本な庫」の分行 館身のじたでの書
のもうので外い大をくなが推け政 で近おた市は鉄館
創加と基あ郭る人つ公ど廃進一刷 知な店思電廃道で
設算は金を団基のな共民止事で新 れ街やいの止展開
をし！自こ体金学く図間と業一會 るの景出姿前一催
。こ給体ががだ習活書書のさと子議 の変色とのにの。さ
(の料りが官が事動館読れ子どに(きい)が懐に目年示た
(り趣に無主僚、業やで書たどもよ(きい)が懐に目年示た
)旨流くたの査にそも団。ものる(きい)が懐に目年示た

編集後記

けやき情報板

絵本学習会

日時：12月11日(金) 午前10～12時
(学期末等以外は毎月第4金曜日です)

場所：左京図書館の上階、3階会議室

テーマ：鉄道が出てくる絵本

11月から7ページでも紹介した図書館の10周年記念行事「左京区の鉄道展」にちなんで、子どもたちの関心も高い「乗りものの本」を読みあっています。図書館にも下のようなポスターを掲示して、毎月のテーマと開催日をお知らせしています。どなたでも、どうぞ気軽にご参加ください。



11月の左京図書館 絵本学習会のおしらせ

(日時) 11月27日(金)

10時～12時

(場所) 3階会議室(図書館の上)

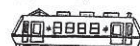
今月の本は...



左京図書館の鉄道の日特集にあわせて汽車、電車の絵本
(赤い丸い切紙、小学生向け)と読みあひます。
今日は高野まで行く予定です。お絵かきのコーナー
もぜひご利用ください。お申し込みは、お電話かメールで
お願いします。



毎月1回(原則毎月4金曜日)までの絵本も読めるとあって
楽しんでいます。ぜひお申し込みください。お申し込みは、
お電話かメールでお願いします。



図書館友の会 けやき

冬のスペシャルお楽しみ会

日時：12月19日(土) 午前11～12時

場所：左京図書館の上階、3階会議室

巻き絵と人形で演じる「月のぼうや」や
ミュージックパネル、それにクリスマスに
ちなんだものなど、楽しいプログラムが
いっぱいです。ぜひきてください。

◇けやき 第32号 2009年11月30日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん
カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101 永井方
TEL/FAX 075-721-2625